

急性冠症候群 再発予防フロー 静岡県版

急性期 医療機関

《脂質低下療法》

ストロングスタチン高用量を開始



LDL-C 70mg/dL 以上の場合

エボロクマブ・インクリシランを検討
(患者の価値観を踏まえ高額療養費等の説明後)

※多職種と連携して栄養・食事指導、禁煙指導、運動指導、服薬アドヒアランスの向上指導等を併せて実施

回復期 医療機関/ かかりつけ 医療機関

| | |
|---------------|-------------------------------------|
| かかりつけの受診間隔の目安 | 心電図の検査間隔の目安 |
| 1~2か月ごと | 最低限3か月ごと 6か月経過後は適宜 (初回受診時は実施) |

| |
|----------------|
| 採血間隔の目安 |
| 心電図検査のタイミングで実施 |

※急性期医療機関は、検査、採血等の間隔の指示がある場合、紹介状や診療情報提供書等により情報提供

入院〜2週間以内

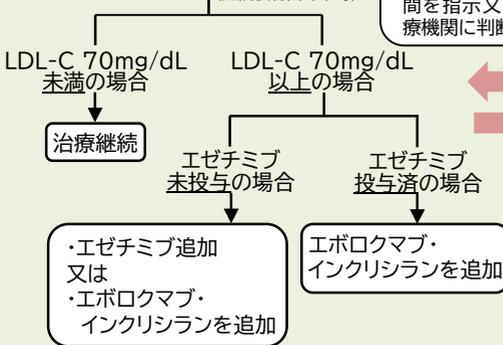
初回外来〜6か月後

6か月以降

退院後3~6か月を目安に急性期医療機関を受診
(3項目が不良の場合も受診を検討)
※抗血小板薬2剤併用療法の継続期間は、出血及び血栓リスクを勘案して決定
※急性期医療機関は、継続期間を指示又はかかりつけ医療機関に判断を依頼

《脂質低下療法》

採血
(退院後初回外来時)



《疾病管理目標》

脂質: LDL-C 70mg/dL未満
 コントロール良好 不良

血圧: 診察室血圧130/80mmHg未満
家庭血圧125/75mmHg未満
 コントロール良好 不良

血糖: HbA1c (NGSP) 7.0%未満
 コントロール良好 不良

血糖コントロールが不良の場合、
糖尿病専門医へ紹介

※多職種と連携してBMI(目標: 25未満)の管理、栄養・食事指導、禁煙指導、運動指導、服薬アドヒアランスの向上指導等を併せて実施

急性期医療機関を受診

必要に応じて心臓カテーテル検査・冠動脈CT・心筋シンチグラム、投薬調整、リポタンパク(a)などの検査を実施

※心房細動等により抗凝固薬と抗血小板薬併用療法をする際には、PCI施行後1年以後に抗血小板薬を中止

急性期医療機関からの特別な指示がなく、下記のいずれかに該当する症例は、急性期医療機関に紹介

- 自覚定状を有する(胸痛、息切れ、浮腫、動悸など)
- LDL-Cが70mg/dL未満に管理できない
- 血圧や血糖が管理目標に到達できない

引き続き定期的に検査を実施することが必要